

10月29日(日)

伝統ある京都の白味噌と広島県産秋さわら

さわらの西京漬

3切

1,000(税込)円

※写真はイメージです

今日はさわらの西京味噌漬けと言う事で、味噌もこだわり京都の石野味噌を使用。京都は桓武天皇以来千二百年間日本文化の中心地であり、白味噌の発祥の地。

石野の白味噌は創業二百三十余年、九代にわたって受け継がれた伝承の技術により醸造された白味噌なんです！

そんな白味噌と今最も美味しいさわらを合わせることで最強になるに違いない！！

まさにさわらの最強漬け！！

さわらは刺身も美味しいんです。特に炙りは絶品！鍋も最高、塩焼き、照焼き、なんでも美味しいんです。

今から2月まではさわらは買いますよー！

今日の、さわらは広島県産で小イワシを沢山食べて育った鱈は格別。

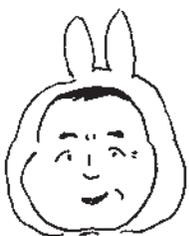
西田鮮魚店 店長 祐宗 優司

西田鮮魚店 ☎72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)
御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

『このままじゃだめだ。じゃあ、次はどんな夢を描こうか?』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



『このままじゃだめだ』と先々週書いた。今回もその続きを書こうと思った。『このままじゃだめだ パート2』
ところが…。

パソコンの前に座り書き始めた。しかし進まない。なんだろう。頭の中がマイナス発想なのだ。書くうちに、だんだん気持ちが悪くなる。元気がどこかに行ってしまう。出てくる言葉が暗い。4分の1書いた所でみんな削除した。

なす術もないまま、机の上に広げていた業界誌の『飲食店経営10月号』をパラパラとめくったり、読みかけの黒川伊保子さんの『職場のトリセツ』を拾い読みしたり、友だちに電話してみたりと、ちよつとした気分転換を試みるが、その気にならない。「うーん、どうしょ」。

なんかヒントがないかな。部屋を見回した。

「ん? あった。これじゃ!」

壁かけのカレンダー。ステイブ・ジョブズの日めくりカレンダー。日めくりなんてだけ曜日が入っていないやつ。曜日が入っていないから、何月でも使える便利なカレンダー。もう5年くらい掛けている。ジョイフルに事務所を移してからは、あまり事務所に来ないので、ほぼめくらない。だから10月23日の今日も、カレンダーの日付は7日。

そこに『さあ、次はどんな夢を描こうか?』という文字が躍り、ジョブズが口を大きく開けて笑っている。

それにしても、なんで書けなくなってしまったんじゃろ。考えてみた。たぶん、『このままじゃだめだ』という暗い言葉が、そうさせるのじゃないか。ここで切ってしまうから、頭が思考停止を起してしまったんじゃないか。

そんな状態の時、ジョブズの『さあ、次はどんな夢を描こうか?』という前向きな言葉が目飛び込んできて、頭の中で『このままじゃだめだ。じゃあ、次はどんな夢を描こうか?』と繋がった。すると、キーボードを叩く手が動き始めた。おもしろいものだ。明るい言葉を使うと、脳が勝手に、そつちに動き始める。

さて、そこにはこんな解説がついていた。

がんばって何かを達成すると、
ごほうびとして2つの扉があらわれる。
一つはこれからのんびり暮らせる部屋。
もう一つは、次のステップへ続く険しい道。
君はどちらへ進みたい?
のんびりしたい気持ちもわかるが、君はそれで満足か?
人はどこまでも成長できる生き物なんだ。
さあ、次のステップへと続く扉を開けよう!

読みながら「ステイブ・ジョブズは天才じゃからねえ。わしのような凡人とは違う。それにジョブズは56才で亡くなつとるが、わしはもう、71才。次のステップの扉とか、どこまでも成長できるとか言われてもねえ。それに、険しい道とわかつとるのに、今さらねえ。」と考えている自分がいた。反省。前を向こう。

私は67才の誕生日に、鮮コーポレーションの社長を退いて会長になり、31才だった息子に後を託した。ジョブズの言うのんびり暮らせる部屋に入ったのだ。

ところが、半年後ジョイフルの理事長を引き受けることになった。誰に頼まれたというわけでもないのだが…。

具体的なプランがあるわけではなかった。ただ『このままじゃだめだ』という思いだけがあった。
1年経過したところ、最初の解体プランができた。

2024年3月、閉店。2025年秋、新店舗開店。

しかし、思わぬ反対にあい頓挫した。

調整を続けた。この間、状況はほとんど変わっていった。驚くほどに。ジョブズの言葉を借りるなら『次のステップへ続く険しい道』ということか。

ジョイフルの一番の問題は残された時間が無いこと。なにより設備がもたない。44年も前の建物。誰の目にも明らかだ。耐震構造が不適と指摘されてもいる。早期の解体しか残された道はない。私たちが年をとった。これ以上、先延ばしにはできない。それぞれの事情はよくわかるのだが。

大きな町ならジョイフルくらいの店がどうなるのが知ったことではないかもしれない。けど、庄原にとってジョイフルは無視できない大きな財産だ。絶対に廃墟にしてはいけない。

『じゃあ、次はどんな夢を描こうか?』

これまでも『モンベル』だ、『道の駅』だと、ここでも書いた。しかし、正直、今は白紙に近い。ただ、実現したいプランがないこともない。あくまで私の夢でしかないが。

今は、戸郷川を挟んだ三日市側は駐車場として利用しているが、そちらにも、なんらかの店、施設を作ることができないかと思う。

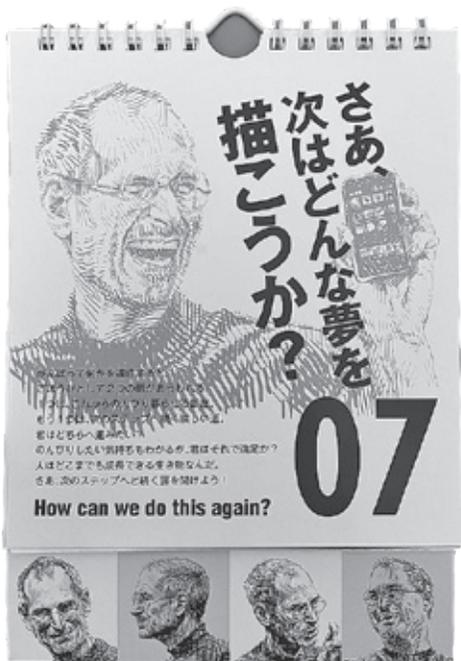
以前は、ここに、自然を取り入れた少し小さめのホテルを建てたらどうかという計画もあった。良いと思った。しかし残念ながら消えてしまった。

せっかくの戸郷川だ、川を活かして景観を創りなおしたい。次の店は、今よりずっと小さくなる。たぶん平屋になるだろう。そうすれば、建物の配置しだいで、6100坪の敷地を、くまなく、ゆつたりと使うことができる。そうすることで、なにより環境がよくなる。戸郷川が生き返るだろう。

都会にあるような、効率一辺倒な店舗配置をするのではなく、そこにある自然を上手に取り込んだ場所にできたらいいのだが。そんなにたくさんさんの店は必要ないのだから。放ついても、自然がそこら中にあるのだし。
事はそう簡単ではないだろうと思うけど。

こんなことを考えていたら、ワクワクする。

庄原の未来のためにも、一日も早いジョイフルの次の夢を形にしたい。



アップル創業者ステイブ・ジョブズの
日めくりカレンダー
How can we do this again